

Pick up

この本

道垣内 弘人＝山本 敬三＝山本 和彦
印藤 弘二＝藤本 利一＝大川 治 編

『中井康之弁護士古稀記念論文集 切り拓く、創る～実践の道程』

発行：商事法務 定価：8,250 円（本体 7,500 円） 2025 年 8 月刊行

東京大学名誉教授・日本學士院会員

伊藤 眞 ITO Makoto



1. 異色の論文集と先生の原点

本論文集を繙いたとき、読者が一驚させられるのは、ユビラール中井先生が、事業再生を中心として、債権法、そして環境法の分野を横軸とし、実務と理論を縦軸とした多彩な活動を展開し、それが第1章「昭和・平成・令和の事業再生」、第2章「民事実務の形成」冒頭の座談会、それに続く各論稿に反映されていることでしょう。「大阪空港訴訟事件が私の弁護士人生を決定づけた」との先生自身の言葉（本書4頁。以下、本書は頁数のみで引用する）は、10年前に帰天された田原睦夫先生（弁護士・最高裁判所判事）による「大阪国際空港公害訴訟（第1次～第4次）が法曹としての原点である」との述懐（伊藤眞『続・千曲川の岸辺——伊藤眞随想録Ⅱ』（有斐閣、2016）46頁）に通じるものがあります。

民事、商事、刑事、行政はいうに及ばず、労働、知財、租税などにまで及ぶジェネラル・サービスを求められる実務法曹ですが、自ずからそこに通底するものがあり、いいかえれば、すべての職務、いかなる場面にあっても、原点を忘れず情熱を保ち続け、「それまでの常識や多数説に与することはたやすいですが、むしろそれを戒め」（67頁）る姿勢こそ、弁護士界はもちろん、裁判所からも（70頁）、法改正担当当局からも（303頁）、そして学界においても先生が信頼を受ける理由であると確信しています。

2. 事業再生の重みを担うヘラクレス

事業再生を担う職務は重く、それは、事業体（会社）の経営が、経営者や株主のみならず、従業員、取引先、金融機関など、多様な関係人の利害にかかわり、ときには、それらの者自身の経営や生活に波及するからに他なりません（岩井克人「会社とは何か？——法人論争と会社システムの多様性」日本學士院紀要79巻2号（2025）157頁）。

したがって、手続の種類や遂行主体が、私的整理の手続実施者であれ、民事再生や会社更生のような法的整理の申立人や管財人であれ、ガイドライン（239、274、283頁）や法準則（145、166頁、405頁など）を踏まえつつ、関係人との合意形成を図るという難事に挑むことになります。それは、巨人アトラスに代わって、暫時、天の重さを担ったヘラクレスの役割に似ています。30年以上にわたって中井先生が手がけた多くの事業再生案件（605頁）が、その重さと力を物語っています。

3. 古稀の意味するもの

現代における古稀は、本来の字義とは異なり、人生の折返し点に過ぎないとは、傘寿を超えた評者の実感です。実務界と学界にまたがるマエストロ・中井先生のご活躍を祈り、折々に、グリーンに向かって歩む刻をともにしていただくようお願いしつつ、愚評の結びといたします。